

ば、バカっ！
お前パンツ見せてくれたら
学校行きますだっ！？
寝ぼけてるのか！？

あん奈先生は担任で
不登校の俺を心配で
わざわざ家まで来てくれた。
怒ると怖いけど
可愛くて話の分かる先生だ。



先生、俺別に学校行かなくても
ちちゃんと家で勉強してるよ。
でも先生がパンツ見せてくれたら
学校ちゃんと通ってもいいかな。

くっ…。

担任になってからずっと観察していたので
先生が押しに弱いのは分かった。

パンツ見せたらちちゃんと学校来るんだな…？

も、もちろんだよ先生！



ほっほら…。

ありがとうございます先生！

うおおおっ！
先生の綺麗な白い肌に負けない
真っ白な下着に俺は興奮した。

もういいだろ。
明日からちゃんと学校来いよ。

嫌です。

はっ？
ふざけんなっ！！

チラッ



おっぱい！

はっ？

おっぱいが見たいですっ！

お前なー！

一生のお願いです先生！
おっぱい見せてくれたら
ちゃんと学校行くから！

くっ……。



どさっ
下半身があらわになった先生を
俺は押し倒した。

ちよっ、待てっ
おおおお前何してんだよっ！

先生俺もう我慢できないよ。
だからちよっただけ
ちよっただけだから。
俺ちゃんと学校行くからっ！



はっ？
いやいやいや
そういう問題じゃないだろうが！

普段見せない慌てふためく先生が
とても可愛く思えて
余計に興奮してきた。
俺は自分の膨れ上がったそれをさらけ出し
先生のある所に押し付けた。

んっ…。ちよっおまっ…。やっ
だ、だめっんっ

嫌がる先生を押さえ
ゆっくりと先生の中に入れていった。

んっいやあ
ああっ

40
70

40
70